

学術集会参加者数は、国内外からの招待者、運営スタッフを含め一万八二八七名にのびりました。海外からの参加者は三五七名で、このうち特別講演などでの海外招待者は八一名でした。学術集会のテーマは「日本発―最新の循環器病学 Late-breaking Cardiovascular Medicine From Japan」で、医学の進展には基礎研究の充実が必要で、優れた臨床研究は基礎的な考えをもとに成り立っていること、またトランスレーショナルリサーチの重要性を認識できるように配慮しました。

そのような中で、日本循環器学会の参加者は一万五〇〇〇〜二万名が予想されるため熊本開催は会場、宿泊の面で無理でした。ただ、熊本でも学会を通して循環器疾患を広く知って頂きたいとの思いがあり、学会終了約一ヶ月後の二〇一五年五月三十一日(日)熊本県立劇場におきまして第七十九回日本循環器学会学術集会記念シンポジウム・市民公開講座を行いました。司会は、熊本中央病院副院長大嶋秀一先生、RKKアナウンサー福島絵美様で、下記のような熊本を代表する先生に講演を御願いしました。

管病く合併症とその対策
内容： 小川 久雄

一 心臓病と下肢血管病
人吉医療センター循環器内科部長
中村 伸一

二 心臓病と脳卒中
阿蘇医療センター循環器内科
永吉 靖央

三 心臓病と腎臓病・糖尿病
天草地域医療センター循環器内科副院長
境野 成次

四 心臓病と医療連携
熊本労災病院循環器内科部長
松村 敏幸

五 BLS(二次救命処置)・心肺蘇生
荒尾市民病院循環器内科部長
梶原 一郎

六 心臓病の大学内連携
熊本大学循環器内科准教授
掃本 誠治

七 心臓病の外科的治療
榊原記念病院心臓血管外科部長
福井 寿啓

(役職は当時)

約九〇〇名の方が熱心にノートをとられ聴講されました。また当日の講演はRKKテレビで後日録画放送され(七月二十日)県内の多くの方に心臓病への関心を高められたのではと思います。さらに各講師に対する質問に対する回答はRKKホームページで公開され、今回の講演を通して市民への循環器疾患に対する予防・啓発活動ができたのではと考えます。これもひとえに、公益財団法人肥後医育振興会様の御協力の賜であり、この場をお借りしまして感謝申し上げますと同時に、御協力頂きました皆様の益々のご発展をお祈り致します。

ありがとうございました。

ITヘルスケア学会第九回年次学術大会報告

学術大会長
熊本大学医学部附属病院医療情報経営企画部部長
宇宿功市郎

平素より附属病院の病院情報システム運用ならびに地域医療連携では大変お世話になっております。
平成二十七(二〇一五)年六月六日〜七日に、「ITヘルスケア学会第九回年次学術大会」をくまもと県民交流館パレアにて開催いたしましたので、その報告をさせていただきます。

学術大会は、梅雨の季節にもかかわらず両日とも晴天に恵まれ、全国より多数の皆様に参加いただき無事に大会を運営することができました。参加者総数は、招聘演者を合わせ計二二五名の来場がありました(無料一般公開講座の参加者数は含まず)。今回の大会では「スマート&ウェアラブル化するITヘルスケアへの展望」とテーマを掲げ開催いたしました。ICTの世界における進展のスピードには驚くばかりで、二〇一四年に大会のこのテーマを決めました際には「スマート」や「ウェアラブル」などといったキーワードに期待をこめ、学術研究へ応用を謳ったのですが、わずか一年でそれらはすでに「当然のこと」になり、現在はスマートデバイスやウェアラブル、

IoT等によるクラウド環境へのヘルスケアデータ収集とその活用へと、新たな段階にきていることが実感できる講演内容に満ちていました。

ロボットを活用した要介護ならびに認知症患者の見守りから始まるロボットが寄り添う近未来の健康社会創造、ICTを用いた生体情報収集、医療・ヘルスケアを支援するシステムの開発、医療・ヘルスケア関連ビッグデータの取り扱い、医療・ヘルスケアをめぐる法と解釈並びに情報セキュリティなど幅広いテーマで発表、討論がなされました。医学科学生の中で興味を持った学生の中から約一〇名にも学術大会の運営補助に参加してもらい、未来の医療のあり方、情報提供・利活用の際に注意すべき点などについて議論を聞く機会をもってもらいました。

本学術大会ではこれまでも、医療・ヘルスケア分野やICTに関わる多くの方に広く門戸を開き、学際分野や立場を超えて共に最新の情報を共有することで、ICTを活用した健康で安全な社会の実現を目指してまいりました。会場では参加いただいた皆様同士で闊達な議論が展開され、大変有意義な時間を共有できたと感じております。とくに、ICT業界側でヘルスケア分野に関わりを持つている方々と、逆に医療・ヘルスケア業界側でICTの利活用に関心を持たれている方同士が同じ場で情報共有や意見交換ができたことは、大変貴重な機会となった